

らしんばん



いずみ 栄立ち通信20
2024年度 第2号

発行責任者 平井 誠敏
編集責任者 羽根 祥充

〒466-0059

名古屋市昭和区福江3丁目5番10号

自立援助ホーム慈泉寮内

就労支援事業 サポートいずみ

TEL (052) 881-7583

FAX (052) 881-7583

E-mail sp.izumi2012@gmail.com

<https://syoutokukai.or.jp/izumi>

9月の後半になっても、猛暑日を記録するなど、今年は夏から厳しい暑さが続きましたが、元気に過ごしていますか。少しだけですが秋が感じられるようになってきました。

今号は、最近話題になったことを取り上げてみようと思います。

地震防災について考えてみましょう

今年の1月1日には能登半島地震があり、深刻な被害をもたらしました。また、8月8日には、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表されたため、万が一に備え、水や非常食品を買い求める人が増え、品薄になる商品も出ました。

地震は、いつ、どこで起きてもおかしくないと言われてはいますが、いざという時のために準備をしている人はまだまだ多くないと思います。



南海トラフ地震臨時情報って？

南海トラフ地震は、私たちが住んでいる地域に、過去に大きな被害をもたらしてきた大規模地震のことを言います。今後30年以内にマグニチュード8～9クラスの地震が発生する確率は、70～80%と言われています。

8月8日に、宮崎県で観測された地震が、南海トラフ沿いのマグニチュード7.0以上の地震と評価されたため、大規模地震の起きる可能性が**ふだんより高まった**として「**巨大地震注意**」という臨時情報が出されました。万一、今後南海トラフ沿いでマグニチュード8.0以上の地震が発生した場合は、「**巨大地震警戒**」という臨時情報が出されることとなります。

今回皆さんはどうしましたか？

万が一に備え、旅行やレジャーをキャンセルしたり、備蓄品を買い揃えようとしたりした人もいました。さて、皆さんはどうしましたか？

国は、巨大地震注意が発表された時は、「**日頃からの地震の備えの再確認に加え、地震が発生したらすぐに避難するための準備**」を呼びかけています。

今回は、それぞれの人が、自分なりの考え方で準備をした結果社会的な影響が出ました。備蓄品を買おうとしても、ほしい物が店にない状況も出ました。臨時情報の呼びかけは終了しましたが、いつ大規模地震が起きてもおかしくない状況は変わりません。今回の呼びかけを機会に、日頃からの備えを行っておきたいものです。

（裏面もあります）

公的年金制度について

将来年金ってもらえるの？

施設から巣立ち、一人暮らしを始める前に、年金の話を何回か聞いたと思います。でも、正直なところまだまだ先の話とと思っている人が多いのではないのでしょうか？また、皆さんの仲間から「将来年金なんてもらえなくなるんじゃないの？」「高い保険料なんて払いたくない」なんていう声もたまに耳にします。



7月3日に、5年に1度行われる公的年金の財政検証の結果が公表されました。その試算によると、今年度20歳の人が65歳時点で受給する年金月額、過去30年間と同じ程度の経済成長率1.1%の場合、平均13.6万円となっています。今年度65歳の人々の年金月額は平均12.1万円です。45年後の推計の試算ですが、決してもらえなくなるような推計はされていません。この検証は5年ごとに行われます。頭の片隅に置いておきましょう。

20歳になると国民年金に加入します

20歳になると、国民年金に加入したお知らせが、日本年金機構から送られてきます。この時に働いていないなどの理由で厚生年金に加入していない人は、保険料を納付する必要があります。保険料は、今年度月額16,980円と、収入の低い人にとってはかなり高いです。

保険料の納付が難しい場合は、保険料の納付が免除または猶予される制度があります。このような制度を活用しましょう。放っておくと、延滞金が発生したり、最悪の場合、財産が差し押さえられたりすることがあります。そして、何より必要になった時に年金が受け取れなくなります。

申請の手続きが難しいと思う時は、日頃支援をしてくれている職員等に相談してください。もちろん、サポートいずみに相談してもらってもかまいません。

連絡先： サポートいずみ TEL (052) 881-7583

<https://syoutokukai.or.jp/izumi/>にある相談フォームからも相談できます。

国語に関する世論調査から

9月17日に文化庁が「国語に関する世論調査」の結果を公表しました。毎年この調査結果をおもしろく見えています。

多くの人が「気にならない」とした、「もふもふ」や「きゅんきゅん」は、私も本当に気にならなくなっています。しかし、どちらの意味だと思いかを聞いた「失笑する」については、多くの人が選択した「笑いも出ないくらいあきれる」という意味だと思ったことはなく、当然「こらえきれずに笑う」という意味だと思っていました。日常あまり使われないので「笑いを失う」と理解され、変化していったのかなと考えました。よく使われている「失言」については「言葉も出ない」という意味で使っている人はいないだろうと思いました。

